



2023年11月6日

各位

会社名 住友精化株式会社
代表者名 代表取締役社長 小川 育三
(コード番号4008 東証プライム市場)
問合せ先 取締役経理企画室長 町田 研一郎
(TEL. 06-6220-8515)

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

当社は、本日開催の取締役会において、資本収益性についての現状評価と分析、改善に向けての取り組み方針を下記のとおり決議いたしましたので、お知らせいたします。

記

■現状評価

当社のPBRは、2018年度以降(過去5年間)1.0を下回っております。

これは、営業利益が増加していないことに加えて、財務面では2016年度以降主に設備投資が低水準であったために現金・預金が増加したことなどにより、株式市場において当社の企業価値向上への期待を高められていないことがPBR1倍割れの主な要因であると考えております。

また、今後の成長に向けた事業戦略や研究開発に関するステークホルダーへの説明を強化する必要があると認識しております。

■目標

1. 中期経営計画の2025年度業績目標(営業利益120億円、ROE8.5%、ROIC8.0%)を達成する。
2. 積極的な成長投資により、2030年度に向けた中長期目標(営業利益成長率6%、ROE10%以上、ROIC10%以上)を前倒して実現する。
3. ステークホルダーとのコミュニケーションを強化するとともに、株主還元の更なる充実をはかる。

■取り組み

1. 中期経営計画の業績目標達成
 - ・ 吸水性樹脂製造設備増強などの取り組みを着実に実行
2. 積極的な成長投資による、2030年度に向けた中長期目標の前倒し
 - ・ 社会全体のGHG排出削減に貢献するための技術開発と社会実装
 - ・ 吸水性樹脂の生産体制の拡充を含めた事業基盤の更なる強化
 - ・ エレクトロニクスガスの供給体制構築への投資継続
 - ・ 吸水性樹脂、環境・エネルギー分野への研究開発リソースの重点配分
 - ・ 人的資本への積極的な投資
3. ステークホルダーとのコミュニケーションの強化及び株主還元の更なる充実
 - ・ IR体制・活動の強化
 - ・ 総還元性向の2023~2025年度の3カ年平均50%以上への引上げ

詳細は別紙をご参照ください。

以上

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた 対応について

2023年11月6日

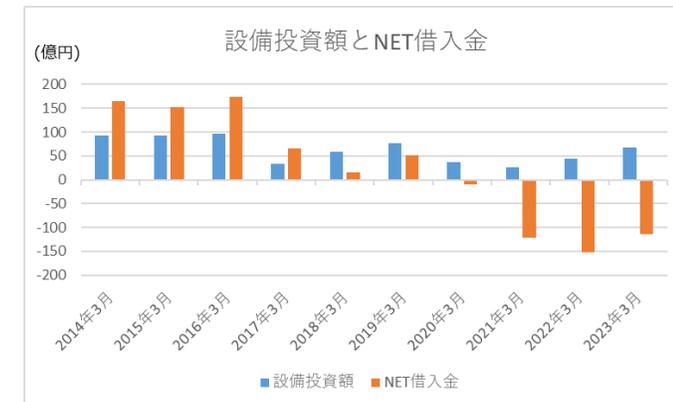
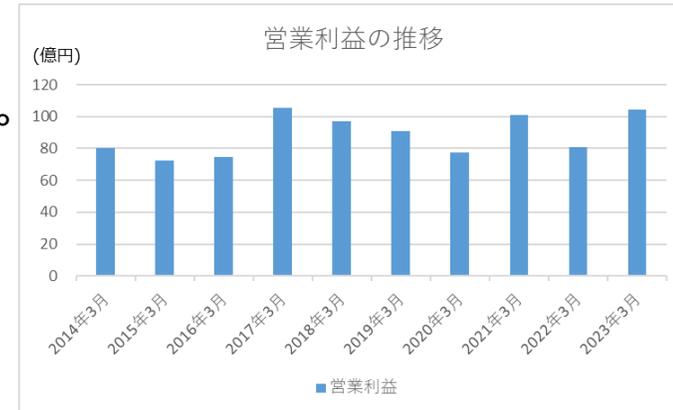
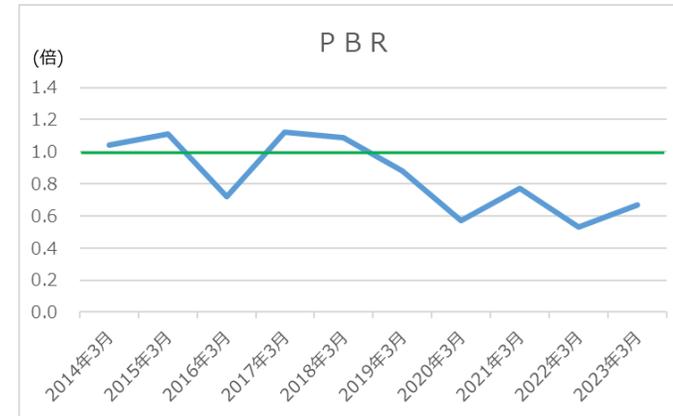
- 当社のPBRは、2018年度以降(過去5年間)1.0を下回っている。

(2018年度以降の業績・財政状態)

- 営業利益は、2017年度以降過去最高を更新していない。
- ネットの借入金(有利子負債ー現金・預金)は2015年度以降減少し、2022年度末で113億円のマイナス(キャッシュ超過)となっている。
- 2018年度以降の平均ROEは7.2%で、資本コスト(約7%)と同程度となっている。また同期間の平均ROICは6.5%で、平均WACCの5.6%を上回っている。

(市場評価に関する分析)

- 営業利益が増加していないことに加えて、財務面では2016年度以降主に設備投資が低水準であったために現金・預金が増加したことなどにより、株式市場において当社の企業価値向上への期待を高められていないことがPBR 1倍割れの主要因であると考えております。
- また、今後の成長に向けた事業戦略や研究開発に関するステークホルダーへの説明を強化する必要があると認識しております。



1. 中期経営計画の2025年度業績目標(営業利益120億円、ROE8.5%、ROIC8.0%)を達成する。
2. 積極的な成長投資により、2030年度に向けた中長期目標(営業利益成長率6%、ROE10%以上、ROIC10%以上)を前倒しで実現する。
3. ステークホルダーとのコミュニケーションを強化するとともに、株主還元の更なる充実をはかる。

以上を通じて企業価値の向上を実現し、PBR1.0倍以上を目指す。

1. 中期経営計画の業績目標(営業利益120億円、ROE8.5%、ROIC8.0%)達成

(意思決定済)

- ・ シンガポールでの吸水性樹脂製造設備増強 (年産70KT、投資額約160百万米ドル、2025年10月設備完成予定)
- ・ 吸水性樹脂のプロセス合理化・開発のスピードアップを目的としたパイロット設備建設 (投資額7億円)
- ・ 新事業の創出に不可欠である技術動向の調査・分析を専門に行う新会社設立

(推進中)

吸水性樹脂事業

- ・ 資材・廃棄物削減に貢献する吸水性樹脂の開発推進
- ・ 使用済み紙おむつから回収した吸水性樹脂のリサイクル技術開発の推進
- ・ 合理化により対2022年度比でプラス30億円の効果の実現

機能マテリアル事業

- ・ エレクトロニクスガスの中長期的な需要増加に対応した供給体制構築
- ・ 次世代半導体材料、リチウムイオン二次電池用電解液添加剤、中小型発電機用絶縁被覆材料等の開発への重点的なリソース配分
- ・ 目標効果額20億円の合理化プロジェクトの開始
- ・ 低濃度CO2分離回収技術の開発

2. 積極的な成長投資による、2030年度に向けた中長期目標(営業利益成長率6%、ROE10%以上、ROIC10%以上)の前倒し
 - 社会全体のGHG排出削減に貢献するため「低濃度CO₂分離回収」や「使用済み紙おむつから回収した吸水性樹脂のリサイクル」の技術開発と社会実装
 - 吸水性樹脂の生産体制の拡充を含めた事業基盤の更なる強化
 - エレクトロニクスガスの供給体制構築への投資継続
 - 吸水性樹脂、環境・エネルギー分野への研究開発リソースの重点配分
 - 人的資本への積極的な投資として、リーダーの育成、専門性を有する人財の採用、労働環境の整備等の実施

3. ステークホルダーとのコミュニケーションの強化および株主還元の更なる充実
 - IR体制・活動の強化
任意開示の積極的な実施、経営計画進捗状況の具体的・定量的な説明の充実
 - 株主還元の更なる充実
総還元性向の2023～2025年度の3カ年平均50%以上への引上げ

補足資料



私たちは、住友精化のケミストリーで、
地球と人々の暮らしが直面する課題を
解決していきます



2022年度 中期経営計画
2020-2022年度

- **事業構造の変革**
 - 研究開発の強化
 - 開発品への積極投資
- 吸水性樹脂：
高付加価値化・合理化推進
- 機能化学品：
経営資源重点配分・開発品上市加速
- ガス・エンジニアリング：
エレクトロニクス分野の新製品開発

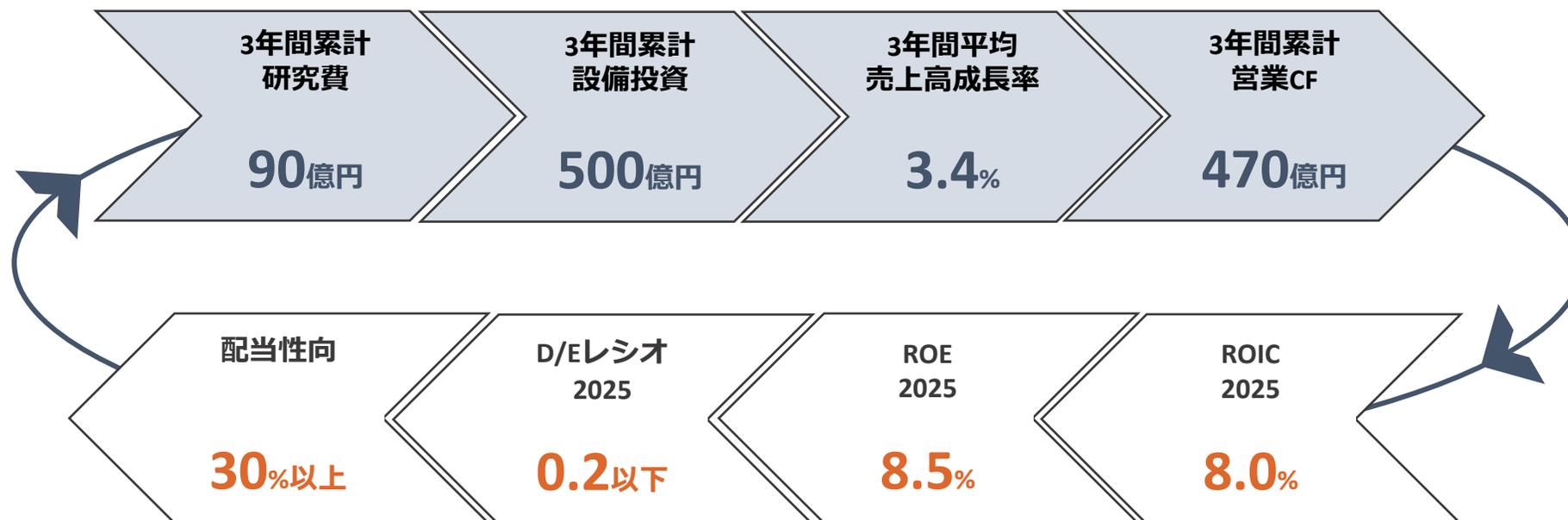
2025年度 中期経営計画
2023-2025年度

- **事業構造の強靱化**
- **研究開発の結実**
- **徹底した合理化**
- **サステナビリティへの
取り組み深化**

~2030年度

- **企業価値の持続的向上**
- **全てのステークホルダーからの期待に応える**
- **SDGsに関連するマテリアリティのKPI達成**
 - > 2030年までに国内のGHG排出量を
46%以上削減（2013年比）
 - > 2050年カーボンニュートラル実現への
取り組み

企業価値の持続的な向上



株主還元の充実・強固な財務基盤の維持

- 株主還元を経営上の最重要課題の一つと考え、配当性向30%以上を基準に、安定的な配当実施および今後の事業展開に備えるための内部留保などを勘案して決定することを基本といたします。内部留保につきましては、業績の向上と経営基盤の強化につながる生産体制拡充、コスト競争力の強化および市場ニーズに対応した製品の研究開発に投資してまいります。



私たちは、住友精化のケミストリーで、
地球と人々の暮らしが直面する課題を
解決していきます

おことわり

当資料は、投資判断の参考となる情報の提供を目的としているものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。

また、記載されている内容は、資料作成時点の当社の判断に基づくものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。当資料の情報は、断りなく変更されるものである点をご了承ください。